

学校における危機対応について

学校全体が被害を受けた場合の危機介入モデル —精神保健の視点から—

学校全体が被害を受けるような大きな危機状態では、学校と外部の精神保健機関が有機的に連携して対応することが必要だと考えられます。現在、学校の防災や安全管理の側面から、さまざまな危機対応策が提案されていますが、今後は教育現場と精神保健領域とがうまく連携できるような危機介入モデルの確立が望まれます。

I. 学校がすべきこと

(1) 被害事実をできるだけ正確に知る

死傷者、その他の健康被害、目撃者、大切な物(人)の喪失、精神不安の有無など

(2) 危機レベルの判断

1. 学級や学年で対応できるレベル
2. 学校全体で対応できるレベル
3. 外部の応援が必要なレベル

(3) 外部援助を要請

危機レベルの判断に迷った時には、とりあえず外部精神保健機関に連絡しましょう。

危機状態の中では、危機を小さく見積もって援助は必要ないと判断しがちです。躊躇している間に解決すべき問題が山積みになってしまいます。



II. 精神保健機関がすべきこと

(1) 被害事実の確認と危機介入の判断

学校長や教育委員会の依頼を受けてから介入するのが基本です。ただし、大きな危機の場合は、学校が応援依頼をする余裕がない時があります。よくわからない場合は、現場に足を運んで、援助が求められているかどうか確認しましょう。

(2) 援助内容の検討

まず、学校が要望する援助を提供しましょう。精神保健に関連することに限らず、当面の問題に学校と協同して対応していく姿勢が必要です。

(3) 外部援助専門家のコーディネート

援助の準備のある精神保健専門家が多数いるときには、外部の精神保健機関がコーディネートすることがとても重要です。危機時の学校には、それぞれの専門家に対応する余裕がありません。

(4) 行政レベルの連携

被害の内容が大きいほど、行政レベルの連携は重要です。早期に行政各担当課が連携できるように、できるだけ詳しい情報と援助の必要性を伝え、縦割りを超えて対応する体制を築いてもらいましょう。

(5) 社会資源の活用と情報提供

日頃から把握している地域の社会資源について、学校に情報提供しましょう。

III. 学校と精神保健機関などが協同でする援助

日頃の生徒や保護者について把握している教師やスクールカウンセラーが中心になって援助し、精神保健機関などがサポートする形が基本です。精神保健機関のサポートは、被害の程度や日頃の連携のあり方などによって柔軟になされることが望ましいと思われます。

(1) 生徒・保護者や教師の安全の確保

危険な状態から守られているか、身体的ケアが必要かどうか、日常生活で困ることはないかなど、生徒・保護者や教師の安全と安心に配慮することは心のケアの第一歩です。保護者の不安をサポートすることは、生徒の心の安全を守ることに繋がります。

(2) 生徒・保護者や教師への情報提供

「被害の事実」、「起こりうるトラウマ反応とその対応」などについて、できるだけ早期に情報提供することは、生徒・保護者や教師の安全の確保につながります。保護者や生徒にリーフレットなどを配布することも有効です。

(3) 総合的評価

被害状況、子どもや関係者のトラウマの予測、家族の状況、教師のストレス状況、支援システムの状況、などの情報を出来るだけ集めて、総合的に評価することが重要です。また、状況は変化しているため、新しい情報が入り次第修正していく柔軟さが必要です。

(4) トラウマ反応からの回復のための援助

(参照)「子どものトラウマとこころのケア」リーフレット

(5) 子どもの精神健康状態をモニターする

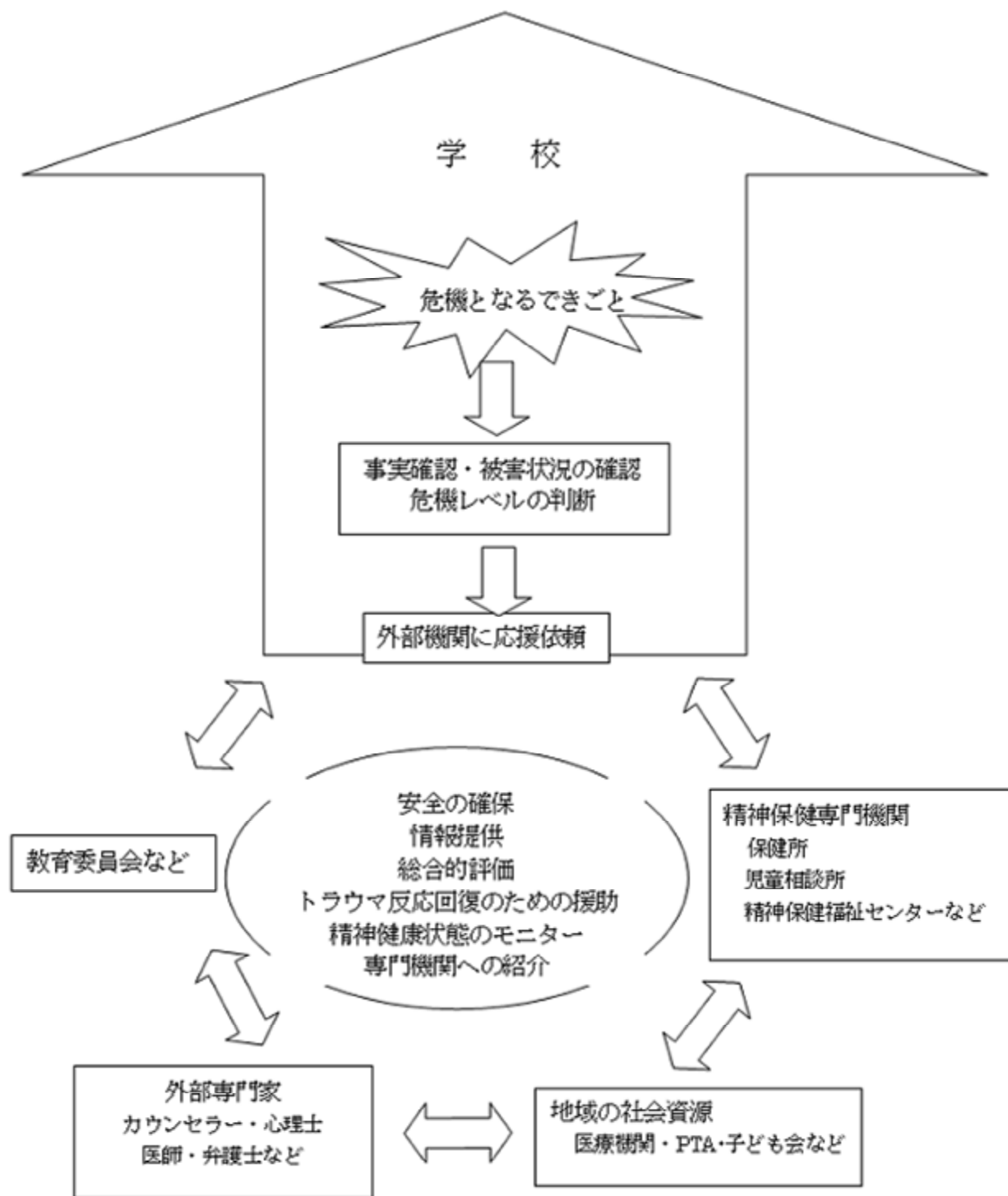
全体の中での観察、個別の声かけ、相談窓口やホットラインの開設、電話や面接での状態把握、質問紙調査など、生徒や保護者の精神健康状態を継続的に把握し、援助の必要性を検討しましょう。どのような手段でモニターするかは、被害の状況や各学校の事情に合わせて選択することが望ましいと思われます。

(6) 専門的ケアが必要なケースを治療機関に紹介する

極度の動揺、強い孤独感や恐怖感、持続する睡眠障害などが認められる場合は、精神科専門機関での治療が有効な場合があります。

(7) 援助する人へのサポート

援助をすること自体がストレスになりやすいものです。被害を受けた生徒の家族、被害者援助の中心的役割を担うと考えられる教師、外部からの援助者の精神健康状態にも配慮しましょう。



助言協力

兵庫教育大学 教育臨床	岩井圭司
国立成育医療センター	奥山真紀子
国立精神・神経センター	金 吉晴
自治医科大学小児科	塩川宏郷
大阪府健康福祉部精神保健福祉課	野田哲朗
大阪大学医学系研究科精神医学	廣常秀人
静岡県立こころの医療センター	山崎 透